

工房オンセは別府市より車で30分ほど入った山里にあります。回りは緑に囲まれ、自然の恵みがいっぱいの中で手作りの伝統工芸品である、ハンドバッグや花籠、盛り皿、ランプ等の作品作りに精を出している職人集団です。大分県は日本一の真竹の生産地です。伸びが良く柔らかい真竹は竹工芸品に適しており、特に細かい細工と強度を要求されるハンドバッグには欠かせないものです。工房オンセの作品には私の名前の雅人から一文字取った、「雅」の銘を彫っています。これは真竹で編んだ国産手作りの作品である証です。現在、全国の名デパートやギャラリー等で展示会を開催し、たくさんの方々にご愛顧いただいています。また今年も皆様のお近くで展示会などを開催した時はお気軽にお立ち寄り下さい。

イタリア・ミラノ 展示会

11月15日～19日まで、イタリア・ミラノの「ガレリア・デ・オルソ」で別府竹細工の4人展を開催しました。どれだけのお客様が来てくれるか？全く未知数の中開幕しました。オープニングには200人以上のお客様がお見えになり、大盛況に終えることが出来ました。掘り下げて作り込んだ作品は世界の何処に持っていても通用すると再確認することが出来ました。会期中500人余りの現地のお客様に、世界に誇れる「別府竹細工」をアピール出来た事は本当に有意義な事でした。特に最終日、ミラノの誇るドーモ(ヨーロッパのゴシック建築の教会)の前の石畳にゴザを敷いて、竹細工の実演、飛び入り大歓迎の竹籠教室をした時は、言葉の壁を越え、現地の人と喜びの交流が持てた事は忘れられません。「竹細工のお陰で、世界何処でも行けるんだ！」と職人ならではの自信を持ちました。今回のミラノ4人展が何故、これほど成功したか？と考えてみると

1. 自分たちで都市から場所、飾りつけの台まで自分たちの色が出せるように拘った。
2. 4人の作品が全員本物であった。お互いに信頼して積み上げる事が出来た。
3. 現地ミラノにアテンドしてくれる人材がいた。会場の候補地探しから、事前の折衝、現地での広報活動、人脈などは我々ではどうしても手が届かない所があるので。
4. 大分県やジェトロのサポートが大きかった。あくまで主体者は我々であるが、細かい事務的なこと、取りまとめ等本当に痒い所に手が届くサポートをして貰ったこと。

本当に多くの人の手助けにより、今回のミラノ展示会を開くことが出来ました。ここまで、積み上げたノウハウを今度は若い後から続く職人達に伝えて行かなくてはなりません。世界に誇れる「別府竹細工」が一人でも多くの方に触れて頂けるように念じて止みません。

2008年 前期催事予定 お近くの時は是非会場に遊びに来て下さい

1月23～29	松坂屋本店 (大九州物産展)	5月 下旬	梅田阪急本店 (職人展)
2月20～25	新宿伊勢丹本店 (大九州展)		ギャラリー催事
3月12～18	横浜高島屋 (九州展)	4月2～9	岡山市 「ギャラリーさとう」
3月19～26	宇都宮東武 (九州沖縄展)	4月中旬	都城市 「NAギャラリー」
4月 9～15	浜松遠鉄百貨店 (九州展)	5月8～20	会津若松市「杏屋ギャラリー」
4月 中旬	難波高島屋 (手作り展)	5月 中旬	萩市 「俣宿」
5月 中旬	静岡松坂屋 (日本の職人展)	6月 上旬	和歌山海南市 「池庄漆器店」
5月 中旬	相模原伊勢丹 (職人の技展)	7月 中旬	越谷市 「じよんのび」

昨年、竹工房オンセのホームページで一番人気は「名入れ箸」でした。まだ、インターネットでの販売に慣れない私どもにとって、何が売れて？何が売れないのか？手探りの状態からスタートしました。その中で、やはり反応のあるのは他では出来ないオリジナルな物、品質の信頼できる物、安心して使っていただける物……等でした。この「名入れ箸」は私が手彫りでお名前を彫っていきます。よく、他で見かけるのは「機械で型文字をなぞって、ドリルがその写しを彫る」というものがほとんどです。私どもでもこの機械を検討したのですが、「何処にでもある」「誰でもできる」「決まった文字しか彫れない」「鉛筆に彫ってある文字のようで味がない」などの理由で止めました。やはり、これだけ拘って作った手作りのお箸には手彫りで無くしては！漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、また、辞書に出ていない創作文字でもFAX頂けたら対応しています。「結婚祝いに新郎新婦の名前を彫って！」「母の日に両親の名前を彫って！」「クラス会で出席者の名前を！」「外国へのお土産に！」プレゼントやご自分のマイ箸に、本当に沢山のご注文ありがとうございました。お客様の要望に応じて、パッチワークを施したオリジナル箸袋も製作しました。インターネットでもご注文いただけますので、一度ご覧下さい。

<http://take-once.com>

昨年は偽装問題に明け暮れた一年でした。

年初めのミートホープ・不二家に始まり、白い恋人・赤福餅・船場吉兆・マクドナルド・宮崎地鶏……と一年中、賞味期限や生産日時の改ざんのニュースばかりでした。私たち工芸の物作りの中にも、何時も問題になるのが、中国製品の偽装問題です。明らかに、中国で生産された物なのに、最終加工や塗装を日本ですること、国産と偽って販売している業者、生産者が絶えません。また、そんな業者に限って、如何にも国産品だと思わせるような上手な売り方をしているのです。竹細工の場合でも、目先の利益に囚われるのではなく、お客様が安心して信頼出来る人間関係を作っていない限り、未来はありません。一部の偽りの業者によって、竹工芸全体が価値の低い物に見られてしまう事がどうしても納得できません。

竹の道具3 巾取りナイフ

竹ヒゴの巾を決める時、私たちは木に2本のナイフを打ち立ててその間を1本1本の竹ヒゴを通すことで巾を揃えています。3mmのヒゴを取ろうとすると、ナイフとナイフの隙間を3mmに打ち込むのです。単純な道具の中では この巾取りナイフを使うのが一番難しいかも知れません。両方の刃を立てる角度、竹を引く角度、刃物の切れ味の三つの要素を無意識に感じて引いていきます。細いヒゴですと巾0.3mmくらいまで削って行きます。巾を揃えたヒゴの角を(面)を取るのも、このナイフを使います。今後は横向きに90度に交差するように木に打ち込み、その上を1本1本ヒゴを抑えて角を(面)を取って行きます。



〒872-0723 大分県宇佐市安心院町萱籠1167 竹工房 オンセ
Tel 0978-48-2027 Fax 0978-48-2070
<http://take-once.com> Email takae@cronos.ocn.ne.jp